



大阪医学統計学セミナー 第59回

Osaka Biostatistics Seminar

3月17日 (金)
16:00~18:00

「がん第1相用量探索試験の最近の展開」

講演者：橋詰 公一 (ブリストル・マイヤーズスクイブ株式会社 バイオメトリクス&データサイエンス部)

概要：

初めてヒト (がん患者) に投与する抗がん剤の第1相試験の主な目的は、最大耐用量 (Maximum tolerated dose: MTD) を特定することである。MTDは毒性を許容できる最大の用量と定義される。30年以上前からMTDを正しく特定するための数多くの試験デザインが提案されている。近年では、これらの試験デザインは、アルゴリズム型、モデル型、モデル支援型の3つに分類される。本講演の第一部では、第1相試験の基礎とモデル支援型デザインの最先端の内容を紹介する。第二部では、2剤併用試験のためのモデル型デザインに焦点を当てる。抗がん剤治療では、異なる作用をもつ薬を複数組み合わせることが一般的となっている。2剤併用試験は、単剤試験よりも探索する用量が多くなり、MTDを正しく特定できる割合 (性能) が低くなりやすい。2剤併用時の毒性発現確率の推定に、単剤試験で得られたデータを活用することで性能の改善を試みる。



場所：
オンライン開催

参加ご希望の方は、前日までに下記問い合わせ先にメールにてお申込みください。

お問い合わせ：大阪大学大学院医学系研究科 医学統計学講座
E-Mail : office@biostat.med.osaka-u.ac.jp TEL : 06-6879-3301